

# Techno-Ocean News



January 2002

No. 3

## 大庭浩会長、2001年度 MTS International Award を受賞！

～ 酒匂敏次、前田久明の両氏に続き、日本関係で3年連続～

大庭浩・TON会長は、海洋科学技術センター (JAMSTEC) 会長としての国際的な海洋科学技術開発への貢献を高く評価され、「OCEANS 2001」(ハワイ、11/5～11/8) で、MTS (Marine Technology Society) から国際的栄誉である International Award を授与された。



受賞後のスピーチ

MTSはアメリカをベースとする海洋関係の横断的な権威ある学会的機関で、毎年OCEANSでいくつかの賞を授与しているが、国内関係の賞とは別に1980年から新たにCompass International Awardが創設されている。初回受賞者は奇しくも日本の故岡村健二氏 (MTS日本支部創設者初代支部長、JAMSTEC理事) で、その後、1984年にJAMSTEC自身が組織としてこの賞を受賞している。そのほか日本関係では過去に故濱田昇氏、元良誠三氏、また一昨年は酒匂敏次・東海大学教授 (現TON理事長、MTS日本支部長)、昨年は前田久

明・東京大学教授 (現日本大学教授) がこの栄えある賞を受賞しているため、今回の大庭会長の受賞は日本関係で3年連続である。加えて、2001年が当のJAMSTECの創立30周年でもあったので、まさに記念すべき受賞といえるものである。

大庭会長はその受賞挨拶を締めくくりにあたり、「私は日本で唯一の定期的な海洋に関する国際会議・展示会であるテクノオーシャンを主催する立場にあり、2002年のミシシッピ州Biloxi、2003年のカリフォルニア州San Diegoにつづいて、2004年にはこのOCEANSが日本の神戸でテクノオーシャンと共同開催される運びであることを紹介し、Luncheon会場の参加者に対して「皆様方のお力添えをもちましてこの共同開催を成功に導きたい」と述べて、協力と支援をお願いし、暖かく大きな拍手を受けた。



MTS会長(右)、Compass社社長(左)と記念写真

## 「テクノオーシャン2002」開催に向けて

— A vision of Ocean Networks —

テクノオーシャン・ネットワーク 理事長 酒匂敏次

明けましておめでとうございます。

ネットワーク設立後初のテクノオーシャン開催となる今年、抱負と期待を込めてテクノオーシャン2002の発揮すべき特色について書いてみることにしましょう。ネットワークが中心になって企画、運営を推進することになりますから会員各位には是非運営等の一助をになっていただき、会員の力が反映されるコンベンションを創り出したいと思っています。今年のテーマは「A Vision of Ocean Networks」となりましたが、これには21世紀の海洋活動、なかんずく研究と管理には、ネットワークによる対応が欠かせないという認識とごく最近の海洋科学技術の驚異的進歩がこの実現を可能にする条件をみだしはじめているのではという内

外の期待、そしてまた今回は本ネットワークがその本領を発揮して、国内外の海洋関係者、関係組織のネットワークづくりにこのコンベンションを活用していこうという呼びかけの意図が込められていると考えています。2004年のOCEANSとの共催をめざして、より完成度の高い国際コンベンション実現のステップとしても活用していただきたい。

今回は、主催のパートナーに、新たに地球科学技術総合推進機構が加わることも決まりました。21世紀の海洋研究は地球と生命の探究にも向かおうとしている今日、この新しいパートナーの参加は、テクノオーシャンの領域を今まで以上に広く深いものにしていくことにつながる第一歩になるものと期待しています。



## OCEANS 2001、昨年11月ハワイで開催

OCEANS国際会議・展示会は、1975年より米国を中心に毎年開催されている海洋の科学技術・産業・政策・教育等さまざまな分野を総合的に取り扱う「国際コンベンション」である。米国で開催されるこの種のコンベンションとしては、毎年5月ヒューストンで開催の「海洋石油開発」をテーマとしたOTC<sup>※1</sup>を別とすれば、海洋全般をカバーする国際会議としてテーマ数、論文数において世界最大級の規模と内容を誇るものとして国際的に高く評価されており、毎年、日本からも数多くの海洋関係者が参加している。

主催団体は、共に本部をアメリカに置く、IEEE/OES<sup>※2</sup>とMTS<sup>※3</sup>であるが、それぞれ日本にも支部があり、IEEE/OES日本支部は笠原順三・東京大学教授が、MTS日本支部は酒匂敏次・東海大学教授が支部長に就任されている。

### 33カ国より1,500名の最大規模で開催

今回は、米国多発テロ事件の発生より2ヶ月足らずの11月5日(月)～8日(木)の4日間の会期中、ハワイ・ホノルルのヒルトン・ハワイアン・ビレッジで開催された。全世界の人々を震撼とさせる衝撃的な事件の後、テロ再発に対しての危機感と航空機を使った旅行自粛ムードの中での開催だけに、米国本土からも含めて参加者・出展者がかなり減少するのではないかと危惧されたにもかかわらず、約1,500名もの多数の海洋関係者が延べ33カ国より参加して大盛況となった。

特にTechnical Sessionでは、会期中13会場で450編以上の論文が発表されるなど、OCEANS開催以来の記録を更新する最大規模となった。取り扱う分野も海洋科学と海洋技術の幅広い専門分野のほか法制・政策、教育・研究、国際



オープニングセレモニーの様子

協力などの分野を網羅し活発な情報交換並びに意見交換が展開された。また、海外、特にアジア太平洋地域からの参加も多く、日本からも個別参加のほかに例年同様の視察団が派遣されるなど、多数の参加があった。

展示会においても約100社・団体による出展があり、最新の機器や製品、設備等が出展された。展示会場には、会議参加者をはじめ多数の来場者があり、各ブースで活発な情報交換がなされた。また、最終日には小学生らしき子供達が展示会場をまわり、各出展者から話を聞いている風景も見られた。なお、テクノオーシ

ャンも出展し、パンフレットの配布等、来場者に対する広報活動を行った。

### 充実した交流拡大の場

OCEANSの国際コンベンションとしての開催意義の一つは、充実したSocial Eventsにある。会期中、連日連夜さまざまな催しが展開され、開催初日のIce-Breaker Receptionに始まり、展示会場で開催されるExhibition Reception、また900名以上の参加者を得て伝統的なハワイアンフードとエンターテイメントを楽しむ本格的ディナーショーが開催された。また、昼には全員着席スタイルでの主催団体によるAwards Luncheonが開催された。なお、MTS主催のAwards Luncheonでは、本紙別稿で紹介しているように、テクノオーシャン・ネットワーク(TON)会長である大庭浩・海洋科学技術センター会長が、International Awardを受賞された。

ところで、今年はOCEANSの会期にあわせてUJNR・MFP<sup>※4</sup>の会合が同じホテル内の別会場で開催されており、OCEANS初日のPlenary Sessionほかのプログラムには相互乗り入れのかたちで参加があったほか、これらSocial EventsにもUJNR・MFP参加者の多くが合流して活発な交流風景が見られた。どの会場にも、多数の日米の海洋

関係キーパーソンが出席し、リラックスした雰囲気の中で旧交を温め、また新しい知己の輪が広がり、フェース・ツー・フェースの新たなネットワーク



展示会場で出展者の説明を真剣な表情でメモする子供達

くりやパートナーシップ構築の場が形成されていた。まさに、コンベンションの開催意義、Social Eventsの大切さを垣間見た思いである。

### 「OCEANS2004」はテクノオーシャンと同時開催

ところで、わが国で同様の国際コンベンションとして1986年より定期(隔年)開催しているテクノオーシャンも、これら海外の国際コンベンションとのネットワーク構築を図っているところである。今年2002年の第9回テクノオーシャンの次、2004年にはこのOCEANSは通常年と異なり開催地を米国内から移して、日本の神戸で、第10回テクノオーシャンと同時開催する計画が進められている。まさにそのOCEANSの実像を、参加者側の立場からはもちろんのこと、運営側の視点も交えて体験できたことは大きな成果であった。

今年のテクノオーシャン2002はもちろんのこと、2004年に向けて気を引き締め、本誌読者諸氏をはじめ協賛・後援機関ほかすべての関係者が一体となって取

※1 Offshore Technology Conference

※2 Institute of Electrical and Electronic Engineers/Oceanic Engineering Society

※3 Marine Technology Society

※4 US-Japan Cooperative Program in Natural Resources・Marine Facility Panel



り組んでいくことが大切であると、改めて感じさせられた。各位のご協力を衷心よりお願いする次第である。  
次回「OCEANS2002」Website：  
<http://www.oceans2002.com>

## 日本海洋工学会の活動について

日本海洋工学会運営委員会 委員長 増田光一

新年明けましておめでとうございます。

日本海洋工学会は、その前身が海洋工学と関係の深い7つの学協会が協力し、「海洋工学連絡会」として、1988年(昭和63年)に設立いたしました。現在は8つ(海洋音響学会、海洋調査技術学会、①資源・素材学会、石油技術協会、②日本建築学会、③日本水産工学会、④日本造船学会、⑤土木学会)の学協会が集まり、海洋工学について横断的に技術、情報の交流を行っております。

当連絡会は、平成11年4月1日にその名称を日本海洋工学会と変更し、学協会を会員としての体制を明確にし、国内外の海洋開発・利用と海洋工学に関する情報交換、海洋工学関連会議や講演の開催・協力・支援と共に、学際的テーマに関する会員間の共同調査・共同研究の促進につとめてまいりました。さらには日本の海洋工学に関係の深い学協会に参加を呼びかけ、充実した構成にし、活動の幅を広げていきたいと考えています。

日本海洋工学会の主な活動には、年2回開催する海洋工学パネルがあります。ここではこれまでに情報交換、学際的課題の発掘、共同研究を目指し、それぞれの学協会の活動を



海洋工学/パネル講演

紹介する3回の活動報告会を、続いて第1回から第24回の海洋工学パネルを開催してきました。海洋工学パネルでは、最新の海洋工学研究者の講演に対し、毎回約100名の参加者が各学会間の垣根を超えた情報交換の基となる意見交換、質疑応答を行っております。

本年2月1日には「21世紀を拓く海洋観測技術」をメインテーマに、第25回パネルを開催いたしますので多くの方々のご参加をお待ちしております。

日本海洋工学会は今後も海洋諸分野の科学・工学の融合を図り、新しい海洋工学の創造を目指して参りますので、皆様方の積極的なご支援をお願い致します。

### 【連絡先】

日本海洋工学会・海洋工学パネル事務局  
(社団法人国際海洋科学技術協会内)

住所：〒107-0052 東京都港区赤坂1-1-17 細川ビル401号  
電話番号：03-5114-8773

URL：<http://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp/sockaiyo/nihon/index.html>

## 「Ship & Ocean Newsletter」のお知らせ



Ship & Ocean Newsletter 表紙

シップ・アンド・オーシャン財団が発行する「Ship & Ocean Newsletter」は、平成12年7月20日「海の日」の発刊以来、新年で34号を数えるに至りました。

本誌は、海洋に関する諸問題について様々な立場や視点からご論議をいただき、「人と海洋の共生」を目指す海洋政策の形成に多少なりとも貢献することを目的に、日本財団のご支援を得て毎月2回発行しているものです。

本誌で取り上げるテーマとしては、地域の小さな海辺のニュースから地球規模のグローバルなものまで、また、科学技術から民族文化に至るまで、あらゆる分野をカバーすべきであると考えており、様々な意見に対する読者の声をふたたび誌面で発信することによって、誰でも参加することのできる誌面作りを目指しております。読者との双方向的な交流はまだまだ充分ではありませんが、号を重ねる毎に反応や投稿も増え、発行の趣旨がある程度生かされつつあることを喜んでおります。

本誌にご興味をお持ちの方には無料で郵送しておりますのでご連絡下さい。なお、既刊号については財団ホームページ上でもご覧いただけますので、こちらも是非ご利用下さい。

「Ship & Ocean Newsletter」に対する皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。

問い合わせ先：財団法人シップ・アンド・オーシャン財団 海洋政策研究部

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶財団ビル

TEL:03-3502-1890/FAX:03-3502-2033/E-mail:info@sof.or.jp/URL:<http://www.sof.or.jp>



## トピックス 神戸市内の工業高生を対象に「テクノオーシャン・ユース」を開催

昨年11月17日(土)に、神戸国際展示場、神戸商船大学において、「テクノオーシャン・ユース」が開催されました。この事業は、TONが推進する青少年向けの海洋科学技術の理解増進事業で、今年度は、神戸工業高等学校、御影工業高等学校の生徒と先生308名が参加しました。午前中には、海洋科学技術センター赤澤氏(元「しんかい6500」パイロット)による講演会、午後には、神戸商船大学の施設見学と実習船「深江丸」の体験航海、神戸商船大学榎原助教授による船上講演会が行われました。



体験航海をする深江丸を前に並ぶ高校生たち

当日は、穏やかな小春日和、広いキャンパスや船上では、高校生たちのにぎやかな歓声や驚きの声が聞かれました。いつもはあまり接するチャンスのない深海の話、船舶や研究施設を体験し、海に対するさまざまな思いを抱いたようです。21世紀を支える彼ら、ぜひ海洋の世界に飛び込んできてほしいものです。



講演会で高校生に質問を投げかける講師・赤澤氏



海事資料館で展示物を見学する高校生たち



## 「テクノオーシャン2002」発表論文及び出展を募集中!

<http://www.techno-ocean.com>

平成14年11月20日(水)~22日(金)、神戸国際展示場にて開催。

「テクノオーシャン2002」では、現在、国際エキジビション、学術研究団体展への出展者と国際シンポジウムでの論文発表者を募集しております。

### <国際エキジビション>

海洋の科学・技術に関する製品・技術・システム等の展示会

出展料:1小間(3m×3m=9㎡) ¥300,000(税別) ※スペース渡

初回出展者のためのトライアウトブースもご用意しております。

1小間(2m×2m=4㎡) ¥150,000(税別) ※基礎装飾付

### <学術研究団体展>

海洋関連の学術研究団体(大学・学会・研究機関等)が、日頃の研究活動や成果をパネル・模型等で発表する場として開催。

1小間(2m×2m=4㎡) ¥50,000(税別) ※基礎装飾付

### <国際シンポジウム>

テクニカルセッション、ポスターセッションにおいて、海洋の幅広いテーマの論文を募集中です。

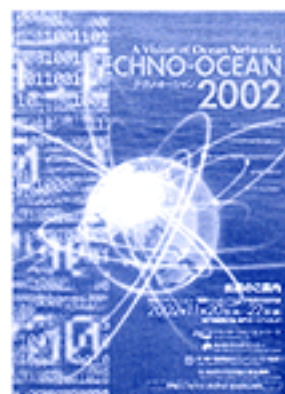
公用言語:英語(当日、一部日本語セッションも設けますが、本論文についてはすべて英語で提出していただきます)

### ●国際シンポジウム関連の提出期限

アブストラクト締切	2002年4月15日(月)
採否通知	2002年5月中旬
本論文締切	2002年9月20日(金)

### ●国際エキジビション

学術研究団体展の申込締切は——  
2002年7月31日(水)



テクノオーシャン2002出展案内

### 各学会のさまざまな情報をお寄せ下さい

本誌面では、各学会、団体の講演会・セミナー開催情報あるいはトピックスの情報などをご紹介して、掲示板の役割も持たせたいと考えております。

そこで、読者の皆様から積極的な情報提供をお待ちしております。ご連絡はご遠慮なく右記事務局まで。

### 編集室から

謹賀新年。いよいよテクノオーシャン2002の年。21世紀は海洋の世紀。日本の海洋関係者あがてのご支援を心からお願いしたい。今年が俊馬のいななき響く明るいな年となりますように。(原)

Techno-Ocean News No.3 2002年1月発行(年4回)

発行:テクノオーシャン・ネットワーク

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目11-1

(財)神戸国際観光コンベンション協会内

☎078-303-7516 ☎078-302-1870

URL: <http://www.techno-ocean.com>

e-mail: [techno-ocean@keva.or.jp](mailto:techno-ocean@keva.or.jp)

ロゴ&表紙ヘッダーデザイン: 東 恵子(東海大学短期大学部助教授)